

試験問題（解答時間40分）（100点）

II. 巡回監査II

問1

次の文章は、資産及び負債の分類について述べたものです。□A□～□E□の中に当てはまる語句を下表から選び、その番号を選択しなさい。（計10点）

資産及び負債は、資金循環、流動性、換金性などの観点から次のように分類します。

分類基準には、□A□と□B□があり、□A□は、資金の循環に着目し、営業活動から生じる資産（棚卸資産、売掛金、受取手形）と負債（買掛金、支払手形）は、保有期間の長短に拘らず、すべて「流動資産」と「流動負債」とします。

これに対し非営業循環資産、負債には、□B□が適用されます。期首から1年以内に□C□される資産（□D□）と1年を超える資産（□E□）に分類し、1年以内に支払期限が到来する負債（流動負債）と1年を超える負債（固定負債）に分類する基準を言います。

- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| 1. 流動資産 | 2. 繰延資産 | 3. 発生基準 | 4. 現金化 |
| 5. 固定資産 | 6. 費用化 | 7. 営業循環基準 | 8. 1年基準 |

問2

次の文章は、剰余金について述べたものです。□A□～□E□の中に当てはまる語句を下表から選び、その番号を選択しなさい。（計10点）

□A□は、資本金、資本剰余金及び利益剰余金に区分します。

資本性の剰余金を計上する資本剰余金は、会社法で定める資本準備金とそれ以外のその他資本剰余金に区分します。

利益性の剰余金を計上する利益剰余金は、利益準備金及びその他利益剰余金に区分します。

さらに、その他利益剰余金のうち、任意積立金のように、株主総会または取締役会の決議に基づき設定される項目については、その内容を示す科目をもって表示し、それ以外については、「□B□」として表示します。

このような区分は、□C□と□D□の区分の原則ともいい、企業の□E□と財政状態を適正に表示するためには、両者は厳密に区別されなければなりません。

① □C□とは、株主資本を直接的に変化させることを目的として行われる取引をいいます。

② □D□とは、企業が利益の獲得をめざして行う取引であり、その結果として間接的に株主資本が変化します。

- | | | | |
|---------|------------|------------|---------|
| 1. 経営成績 | 2. 株主資本 | 3. 純資産 | 4. 資本取引 |
| 5. 損益取引 | 6. 繰越利益剰余金 | 7. 当期末処分利益 | 8. 資金繰り |

問3

次の文章は、「中小企業の会計に関する基本要領」（以下「本要領」という）について述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を選択しなさい。（計10点）

- (1) 本要領の利用が想定される会社は、すべての株式会社である。
- (2) 本要領の利用が想定される会社において、「中小企業の会計に関する指針」に基づいて計算書類等を作成するべきではない。
- (3) 本要領は、企業のグローバル化に対応するため、国際会計基準の影響を受けるものとする。
- (4) 記帳は、すべての取引につき、正規の簿記の原則に従って行い、適時に、整然かつ明瞭に、正確かつ網羅的に会計帳簿を作成しなければならない。
- (5) 原則として、収益は実現主義、費用は発生主義によるが、収益及び費用の計上は原則として純額主義による。
- (6) 資産は取得時の価額から、将来の減損及び除去時の費用を見積り現在価値に引き直した金額を控除して計上する。
- (7) 負債は原則として債務の額で計上する。なお、受取手形割引額および裏書譲渡額は原則として負債の部に計上する。
- (8) 回収不能の恐れのある債権はその金額を貸倒引当金として計上する。なお、法人税法で定められた法定繰入率を使用することはできない。
- (9) 固定資産の減価償却は、任意償却が可能である。
- (10) 財務諸表の注記は、会社計算規則に基づき重要な会計方針に係る事項や株主資本等変動計算書に関する事項を記載する。なお、「中小会計要領」に拠って作成した旨を記載する必要はない。

問4

次の文章は、「中小企業の会計に関する基本要領」について述べたものです。 ~ の中に当てはまる語句を下表から選び、その番号を選択しなさい。（計10点）

- (1) 有形固定資産の とは一般的に耐用年数にわたって、每期、 に減価償却を行う事が考えられる。
- (2) 棚卸資産の評価方法は、個別法、先入先出法、総平均法、移動平均法、 、売価還元法等がある。
時価が取得原価よりも し、回復の見込みがあると判断した場合を除き、 を計上する。
回復の見込みは「ある」か「ない」かであり、 が判断するものである。
- (3) リース取引の借手は、 または に係る方法に準じて会計処理を行う。また、リース資産は、一般的に、 で減価償却を行う。
 に係る方法で会計処理した場合、金額的に については、未経過リース料の注記が望ましい。

- | | | |
|-------------|--------------|----------|
| 1. 継続的 | 2. 多額なもの | 3. 規則的 |
| 4. 最終仕入原価法 | 5. 低価法 | 6. 著しく下落 |
| 7. 評価損 | 8. 経営者 | 9. 税務署 |
| 10. 賃貸借取引 | 11. 売買取引 | 12. 定率法 |
| 13. 相当の減価償却 | 14. 重要性があるもの | 15. 定額法 |

問5

次の文章は、会計処理について述べたものです。会計上の処理として正しいものには○印を、誤っているものには×印を選択しなさい。(計10点)

- (1) 棚卸資産の評価について、時価が取得原価より著しく下落した場合の評価損は、原則として営業外費用又は特別損失として表示しなければならない。
- (2) D社は、事務所家賃を2年ごとの決算月に、2年分を一括して前払いしている。D社は、この支払家賃を現金主義で経理処理している。
- (3) 当社は、繰越欠損金が当期で期限切れになるものがあるので、当期の減価償却費を一切計上しません。
- (4) E社は、自社の株式を取得したので、投資その他の資産に自己株式として表示した。
- (5) 「要領」は、会計ルールの注記事項として、本文に「本要領によって計算書類を作成した場合には、その旨を記載する」と明示し、この記載は、利害関係者に対して、決算書の信頼性を高める効果を期待できるとしている。

問6

次の文章はそれぞれの経営指標について述べたものか下表から選び、その番号を選択しなさい。(計10点)

- (1) 投下された資本が売上として何回回収されたかを示す比率で、この比率が高ければ高いほど、資本が効率的に活用されていると判断されます。
- (2) 従事員1人当たり、いくら限界利益を稼いでいるかを示し、生産性分析で最も重要な指標です。
- (3) 流動資産と流動負債の金額を比較することで、短期的な支払能力をみる代表的な指標です。この比率が高いほど短期的な支払能力があり、安全性が高いことを意味します。
- (4) 総資本のうち自己資本がどの程度の割合を占めるかを示す指標です。この比率が高いほど、経営が安定しているといえます。
- (5) 固定資産への投資を自己資本でまかないきれなかったとしても、不足分は返済期間の長い「長期借入金等の固定負債」でまかなうことを原則とする考え方で、固定比率の補完的な指標となります。

1. 総資本経常利益率	2. 1人当たり加工高	3. 流動比率
4. 固定長期適合率	5. 労働分配率	6. 預金対借入金比率
7. 自己資本比率	8. 総資本回転率	

問7

次の計算式はローカルベンチマークの財務情報に採用されている経営指標の一部です。それぞれの経営指標名を下表から選び、その番号を選択しなさい。(計10点)

- (1) $\{ (\text{今期純売上高} \div \text{前期純売上高}) - 1 \} \times 100 =$
- (2) $\text{営業利益} \div \text{純売上高} \times 100 =$
- (3) $\text{営業利益} \div \text{平均従事員数} =$
- (4) $(\text{借入金} - \text{現金} \cdot \text{預金}) \div (\text{営業利益} + \text{減価償却費合計}) =$
- (5) $(\text{売上債権} + \text{たな卸資産} - \text{買入債務}) \div (\text{純売上高} \div 12) =$

- | | | |
|-------------|---------------|------------------|
| 1. 売上債権回転期間 | 2. 売上増加率 | 3. EBITDA有利子負債倍率 |
| 4. 自己資本比率 | 5. 営業運転資本回転期間 | 6. 労働生産性 |
| 7. 売上総利益率 | 8. 営業利益率 | |

問8

次の文章は、資金繰りについて述べたものです。 A ~ E の中に当てはまる語句を選び、その番号を選択しなさい。(計5点)

- (1) A (1. 経常収支 2. 財務収支)は、企業の通常の事業活動から得られる資金の額を表したものです。
- (2) 何といても、資金の最大の源泉は B (1. 利益 2. 借入金)です。その獲得状況を損益計算書分析によって見てみましょう
- (3) 特に取引条件の変更がなくても(売上債権回転期間に変動がなくても)、売上規模が増大すると売上債権残高も C (1. 比例して増加 2. 反比例して減少)しがちです。
- (4) たな卸資産への支出は、 D (1. 外部環境の変化による影響を受けやすい 2. 社内の意思決定によるコントロールが可能な)部分であり、売上債権・買入債務と比べて改善に着手しやすい項目といえます。
- (5) 資金繰り計画表は、 E (1. 一年の利益管理 2. 日々の資金管理)を把握するツールです。

問9

次の文章は、経営計画について述べたものです。□ A □ ~ □ E □ の中に当てはまる語句を下表から選び、その番号を選択しなさい。(計5点)

- (1) 「経営計画」とは、企業がその将来に向かって、□ A □ や目標を達成するために必要な計画のことを広く指します。経営判断を行う上で、その良否を判断する基準となるものです。経営計画はその計画期間の長短や性格の違いによって、「□ B □」「□ C □」「□ D □」に分類することができます。
- (2) なかでも経営計画は□ C □ が基本になります。企業の進むべき方向性を明確にし、「今、何をすべきか」を明らかにすることをねらいとして策定されるものです。「現状から見た将来を示すもの」といえます。
- (3) 一方、経営計画の実現・実行には、詳細な行動予定と成果の予測が必要です。これらは売上・原価・固定費・人材育成・投資など多岐にわたって立案する必要があります。こうして立案されるものが、いわば、理想と現実の間に「はしごをかける」のが□ D □ といえるでしょう。
- (4) 企業経営の本質は、崇高な□ E □ を具現化していく営みです。このためには、ある程度の未来の到達状態を誰もがビジュアル化(イメージ化)できることが必要です。社員全員に、この数年(3~5年程度)で到達する状態を明示するということです。「□ A □」は□ E □ をより具体化したものといってよいでしょう。

- | | | | |
|-----------|-----------|---------|-----------|
| 1. 経営資源 | 2. 中期経営計画 | 3. 経営理念 | 4. 経営ビジョン |
| 5. 予算実績比較 | 6. 短期経営計画 | 7. 経営環境 | 8. 長期経営計画 |

問10

次のA社の貸借対照表並びに損益計算書から安全性に関する各比率を求めなさい。
 なお、解答はすべて半角（カンマなし）で入力し、解答に小数点以下の端数が出た場合は小数点第2位を四捨五入すること。（計10点）

貸借対照表				損益計算書	
		(単位：千円)		(単位：千円)	
勘定科目	金額	勘定科目	金額		
現金・預金	30,000	買掛金	100,000	売上高	700,000
売掛金	120,000	※長期借入金	130,000	売上原価	616,000
商品	40,000	資本金	100,000	売上総利益	84,000
機械装置	210,000	剰余金	70,000	販管費	75,000
合計	400,000	合計	400,000	(減価償却費)	(3,000)
				(その他)	(72,000)
				営業利益	9,000
				営業外収益	1,500
				営業外費用	3,500
				経常利益	7,000
				法人税等	2,500

※長期借入金のうち10,000千円は役員からの無利息借入で、残り120,000千円は金融機関からの有利子負債である。

- | | | |
|-------------|--------------------------------|---|
| (1) 流動比率 | <input type="text" value="A"/> | % |
| (2) 当座比率 | <input type="text" value="B"/> | % |
| (3) 固定長期適合率 | <input type="text" value="C"/> | % |
| (4) 自己資本比率 | <input type="text" value="D"/> | % |
| (5) 債務償還年数 | <input type="text" value="E"/> | 年 |

問 1 1

X社の売上高等は次のとおりです。売上高が20%増加した場合、資金繰りにどのような影響があるか、取引条件等に変化は無いもの（各回転期間は一切変わらない）として、下記の設問に答えなさい。

なお、解答はすべて半角（カンマなし）で入力し、解答に千円未満の端数が出た場合は切り捨てること。（計10点）

売上高 80,000千円（限界利益率20%）
棚卸資産 6,400千円（棚卸資産回転期間29.2日）
売上債権 9,600千円（売上債権回転期間43.8日）
買入債務 4,800千円（買入債務回転期間21.9日）

(1) 限界利益の増加額を求めなさい。	<input type="text" value="A"/>	千円増加
(2) 棚卸資産の増加額を求めなさい。	<input type="text" value="B"/>	千円増加
(3) 売上債権の増加額を求めなさい。	<input type="text" value="C"/>	千円増加
(4) 買入債務の増加額を求めなさい。	<input type="text" value="D"/>	千円増加
(5) 運転資金の調達高の増加額を求めなさい。	<input type="text" value="E"/>	千円増加